

| | |
|-------|---------------------------------|
| 研修名 | 子育て支援研修（保育相談支援） |
| | 平成 29 年 1 月 13 日（金） 13:30～16:00 |
| 講演・演習 | 「保育相談支援～保育士の努力と工夫を見直そう～」 |
| 講師 | 桜花学園大学 小嶋 玲子 氏 |

1 講演要旨

・『保育記録を書く』上でお願いしたいこと（6点）

（午前中の講演の補足）

- ① 自分の課題や気づきを入れる
- ② 関係性の視点を入れる
- ③ 主語と述語の明確化
- ④ 事実と意見の区別（事実は1つではない）
- ⑤ ワンセンテンス、ワンミーニング
- ⑥ その場にはいない人が読んでもわかるように

書く時間を確保する。

書く目的は・・・自分たちの保育を見直すため

・講演のテーマにある『見直す』の意味

「それまでの見方を改める。前に気づけなかった価値を認める。」こと。成功の責任追及（うまくいっている理由の追及）はなかなかしない。あたりまえにしている努力や工夫は、保育者の専門性として大切なことであり、再度見直し、発信できるようにする。

・保育士養成カリキュラムの改訂

2003 年度の国家資格化、2015 年度の新制度施行、保育指針の改定など保育をめぐる状況が変化しているため、養成校のカリキュラムも新規のものが増えたり、名称変更するものがある。

・保護者・家庭・及び地域と連携した子育て支援の必要性

近年、子育てをめぐる地域や家庭の状況も変化し、子育てに不安を抱いたり、孤立感を高まらせる親も増えてきているため、子どもの育ちと子育てを支援していくことが重要になっている。

・保育指針における保育士の専門性と保護者に対する支援

保育所における保育士は、保育所の役割及び機能が適切に発揮されるように倫理観に裏付けられた専門的知識・技術及び判断をもって、子どもの保育をするとともに子どもの保護者に対する保育に関する指導を行うもの。保護者に対する支援の基本 7 項目も資料に掲載。

・後半はワールドカフェ方式でグループ討議

4人組になり、自己紹介・プチハッピー・保育相談支援で努力していることをだしあい交流→メンバーをかえ再び交流・討議→最初のメンバーにもどり、討議し勉強になったことをまとめ発表する。

傾聴することは、支援の基本。

子どもの姿・日々の様子を保護者に知らせる・伝えることで保護者の養育も向上。保護者は支援だと思われたい。思われたいところが保育の専門性。他の保育士がしている良い事をすかさず認める。声をかける。評価する。よりよく仕事をしようとするということにもつながる。

2 感想

保育相談支援が日頃うまくできているのだろうかと思っていたが、日々子どもの様子を保護者に伝えること・知らせること保護者の話に耳を傾けることなどあたりまえに行っていることが支援となっていると聞き、今後も積極的に行おうと思いました。

また、倫理観に裏付けられた専門的知識・技術及び判断と。専門性を高めるための勉強も継続していくべきかとも思います。

今回、行われたワールドカフェ方式は、多くの保育関係者の方がお互いの話に傾聴し、交流ができ、自分自身の支援の見直しにもなりました。もっともっとグループでの討議の時間がほしいとも思いました。

(記録 宇治市立西小倉保育所 伊藤万利子)

